

<翻訳家プロフィール>

パナヨティス・エヴァンゲリディス



アテネ出身。アテネ大学法学部卒業後、長年にわたり日本など海外に在住。現在、アテネを拠点に、主に日本文学作品の翻訳家、映画監督・脚本家として活動。英、仏、スペイン文学の翻訳も手掛ける。初めて翻訳した外国語文学はアルゼンチンの作家、アドルフォ・ビオイ＝カサーレスの『モレルの発明』(Agra 出版、1991年)。

執筆者として、小説4冊を上梓。日本の文化や芸術についての講演も行っている。ギリシャにおける日本文化の普及に関する貢献が称えられ、2024年度外務大臣表彰受賞。

主な訳書に、谷崎潤一郎著「陰翳礼讃 (Το Εγκώμιο της Σκιάς)」(Agra 出版、2021年)、「鍵 (Το Κλειδί)」(Agra 出版、2011年)、川端康成著「掌の小説(Ιστορίες της Παλάμης)」(Patakis 出版、2013年)、「美しさと哀しみと(Ομορφιά και Θλίψη)」(Kastaniotis 出版、2009年)、三島由紀夫著「サド侯爵夫人(Η Μαρκησία ντε Σαντ)」(Agra 出版、2011年)、永井荷風著「雨瀟瀟(Σιγανή Βροχή)」(Alexandreia 出版、1991年) 小川洋子著「薬指の標本 (Ο Παράμεσος)」(Agra 出版、2011年)、「雨のプール/ドミトリー/妊娠カレンダー (Η ΠΙΣΙΝΑ ΤΩΝ ΚΑΤΑΔΥΣΕΩΝ - Ο ΚΟΙΤΩΝΑΣ - ΗΜΕΡΟΛΟΓΙΟ ΕΓΚΥΜΟΣΥΝΗΣ)」(Agra 出版、2002年)、井上靖著「ある偽作家の生涯 (Η Ζωή ενός Πλαστογράφου)」(Agra 出版、2005年) など、他にも多数。最新の訳書に、川端康成の『雪国』(Agra 出版、2024年)。

ステリオス・パパレクサンドロプロス



アテネ大学神学部名誉教授。主に日本の仏教学を専門とする宗教学者。1979年～1981年、文部科学省国費留学生として東京大学に留学、博士号取得。日本の様々な大学や研究機関にて研究を続け、卓越した日本語能力を活かしギリシャに日本の文化を広く紹介してきた希少な日本研究家。大学のみならず、長年にわたり一般市民講座においても仏教美術、日本画や新版画などをテーマに講義を行っている。日本や東洋の宗教に関する著書も多数出版。

また、ギリシャの大学における初の日本文学科設立の実現に向けて精力的に取り組んできた。2014年、ギリシャにおける日本研究の発展及び日本・ギリシャ間の相互理解の促進に大きく寄与されてきた功績が称えられ外務大臣表彰を受賞。2020年度秋の外国人叙勲において旭日小綬章を受賞。

訳書に、志賀直哉著『范の犯罪、他短編 (Το έγκλημα του Χαν και άλλα διηγήματα)』(雑誌「Planodion」Vo.32 発表、2001年)、上田秋成著『雨月物語 (Ιστορίες της σελήνης μετά τη βροχή)』(Agra 出版 2022年)、安部公房著『砂の女 (Η γυναίκα της άμμου)』(Agra 出版、2004年)、太宰治著『人間失格 (Δεν Ήμουν πια Άνθρωπος)』(GUTENBERG 出版、2022年)。最新の訳書は、安部公房著『他人の顔 (Το πρόσωπο του άλλου)』(Agra 出版、2024年)。

マリア・アルギラキ



アテネ出身・在住。翻訳家、公認観光ガイドとして活動。ギリシャ政府観光ガイド養成学校、アテネ大学英文学部卒。英シェフィールド大学日本研究学修士号取得。英オックスフォード大及びアテネ大学にて上級文芸創作講座受講。米国、フランス、英国、日本、トルコに滞在、修学及び就職。日本では1978年、東京・岩波ホールで上映されたセオドロス・アンゲロプロス監督『旅芸人の記録』の日本語字幕をヴァシリス・コロナキス氏及び池澤夏樹氏と共同担当したのが、翻訳を始めるきっかけとなる。ギリシャでは、1983年に雑誌『η λέξη』で翻訳デビュー。ギリシャ国営テレビ局で放映された蜷川幸雄演出「王女メディア」の録画公演の字幕を担当。

2014年、ギリシャ文学翻訳家協会の外国文学作品部門で最優秀賞受賞。2016年、ギリシャにおける日本文化の普及及び相互理解の促進に寄与されてきた功績が称えられ、外務大臣表彰を受賞。また、2024年度春の外国人叙勲において旭日双光章を受賞。

訳書に、村上春樹著『色彩を持たない田崎つくると、彼の巡礼の年 (Ο άχρωμος Τσουκούρου Ταζάκι και τα χρόνια του προσκυνήματός του)』(Psychogios 出版、2014年)、村上春樹著『アフターダーク (Τις μικρές ώρες)』(Psychogios 出版、2013年)、村上春樹著『1Q84 BOOK1, 2, 3』(Psychogios 出版、2011・2012年)、池澤夏樹著『イラクの小さな橋を渡って (Από ένα μικρό γεφύρι στο Ιράκ)』(Oikos 出版、2001年)、宮沢賢治著『銀河鉄道の夜、他短編 (Μια νύχτα στο σιδηρόδρομο του Γαλαξία και άλλες ιστορίες)』(Oikos 出版、2000年)、

宮沢賢治著『夜鷹の星、他短編 (Το άστρο του νυχτογέρακου και άλλες ιστορίες) 』 (Oikos 出版、1999 年)。映画や舞台公演の字幕翻訳なども多数手掛ける。2023 年より宮沢賢治の詩集をギリシャ語に翻訳している。

<シンポジウム進行役>

リアナ・サケリウ



アテネ大学英語英米文学部教授。文芸創作・米国文学専門。2013 年～2017 年、同学部長就任。アテネ大学英文学科卒業後、英エセックス大学及び米ペンシルバニア州立大学にて修士号取得。詩、エッセイ、書評、翻訳などを手掛け、これまでにギリシャ、フランス、ルーマニア、スペイン、米国にて 28 冊出版。

2015 年～2017 年、ギリシャ翻訳賞審査委員会の副審査員長を務める。

2017 年にブリュッセルで開催されたヨーロッパ短編小説賞の国際審査員長を、また 2018 年のヨーロッパ短編小説賞ではギリシャ審査員長を務める。最新の訳書は、Alik Barnstone 著『Eva – The Voices of an Imaginary Poet (Εύα : Οι φωνές μιας ποιήτριας της φαντασίας) 』 (Vakchikon 出版、2023 年)。